

産業構造審議会産業技術環境分科会産業環境対策小委員会（第9回）

議事要旨

日時：令和3年2月8日（月）16時00分～18時00分

場所：Web会議

出席者

東海委員長、梶井委員、梶原委員、亀屋委員、木村委員、崎田委員、佐藤委員、鈴木委員、竹内浩士委員、竹内純子委員、湊元委員、永田委員、永松委員、長谷川委員、馬場委員、春田委員、光成委員、守富委員、山崎委員

一般社団法人産業環境管理協会 遠藤様、国立研究開発法人産業技術総合研究所 井上様、一般社団法人日本鉄鋼連盟 中村様、普通鋼電炉工業会 田村様、一般社団法人日本鋳鍛鋼会 石坂様、株式会社三菱総合研究所 松本様、一般財団法人日本気象協会 佐々木様

議題

1. 揮発性有機化合物（VOC）排出抑制のための自主的取組の状況
2. 水銀要排出抑制施設の自主的取組の状況
3. 公害防止管理者制度の今後の在り方
4. その他の産業環境対策に関する取組状況

議事概要

資料に基づき説明を行い、質疑を行った。委員からは主に次のような発言があった。

（議題1 関係）

- ・ VOC排出抑制のための自主的取組について、事業者の努力を評価。効果的な光化学オキシダント対策が明確でない現状では、自主的取組及びフォローアップを継続することが現実的。引き続き、事業者に過大な負荷とならないよう留意する必要がある。
- ・ 業界団体に未所属の事業者への働きかけは、これら事業者にどの程度、情報が伝わっているかを検証する必要があるのではないか。また、サプライチェーンの上流や顧客からの働きかけを検討してはどうか。
- ・ 定量的評価等に関する調査について、地域性等も考慮し実効性がある対策が検討されることを期待。植物由来VOCの実態把握に努め、排出対策も検討する必要があるのではないか。越境汚染による影響の把握も課題。また、VOC削減に要するコストの定量化について検討してはどうか。

（議題2 関係）

- ・ 水銀に関する自主的取組について、事業者の方に積極的に取り組んでいただいております評価。
- ・ データに基づいた対策の検討や、最新の設備の導入による排出濃度の改善を進めていただきたい。

（議題3 関係）

- ・ 公害防止管理者制度の有用性は評価するが、中小企業においては有資格者の安定確保は困難であり、負担感を考慮した対策の検討をお願いしたい。
- ・ 有資格者の再教育は、環境政策の新しい考え方や環境法の改正事項を理解する機会となり非常に重要。事業者が大きな負担なく再教育を受けられる仕組みの構築や、魅力あるカリキュラムの充実をお願いしたい。
- ・ 今後、新興国においても公害防止管理者の資格や制度が必要とされると思う。将来的に日本の専門家が管理技術を海外でも活用できるよう相互認証制度があるとよい。

- ・コロナ禍を踏まえ資格取得機会の喪失リスクを回避するため、デジタルソリューションの活用を検討していただきたい。

(議題4 関係)

- ・PCB廃棄物について、事業者は掘り起こしに努力しているが、期限に間に合わない懸念もある。産業界の状況や考え方を聞いていただき、環境省と実効的な取組を推進していただきたい。
- ・暫定排水基準の見直しのうち、硝酸性窒素については、コストに見合った安定的な処理技術が確立されていない。費用対効果の観点から合理的な技術の確立に向けて、知見の充実と適切な基準の在り方を柔軟にご検討いただきたい。

以上

お問合せ先

産業技術環境局 環境管理推進室

電 話：03-3501-4665

FAX：03-3580-6329